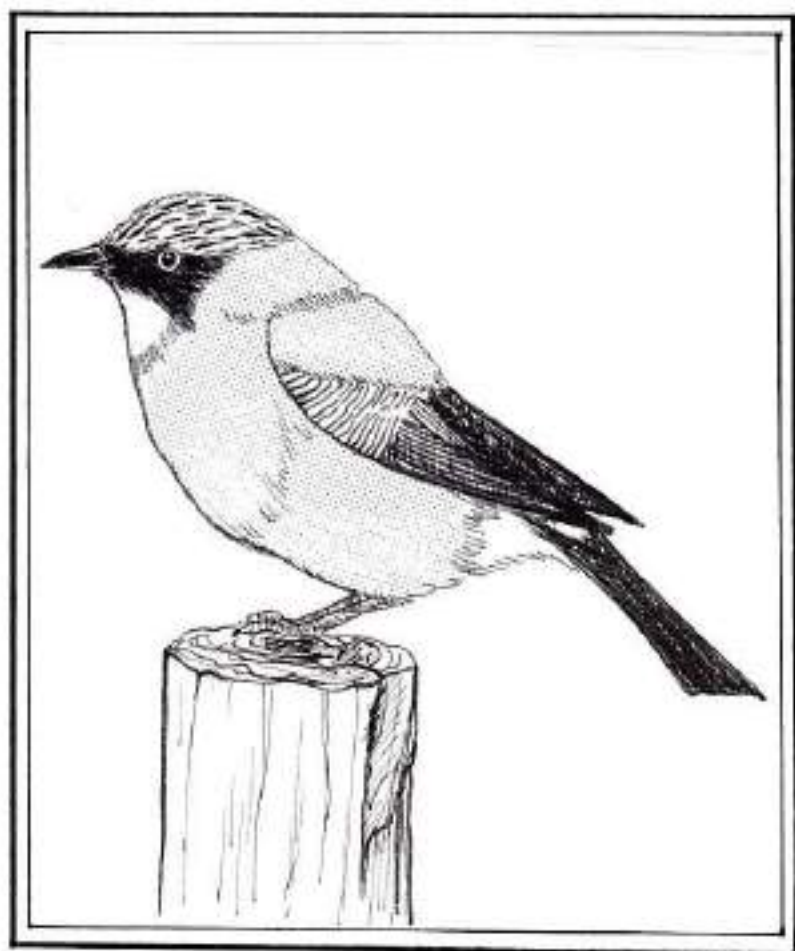


Interpreter

Workshop vol. 14

森のつうしん



府民の森パークレンジャー

1998

Interpreter Workshop vol.14

—— も く じ ——

・特集—「おすすめの1冊」

村西
奥野
松野
新居田
穂積
谷口いずみ

・表紙の解説

西出

・しし座流星群レポート

稲垣
角野

・ネイチャー通信

金崎

・屋野リゾート picchio

太田

・「庭の植物」
〈晩秋から冬にかけて見られる実〉

山田

・リレーエッセイ
「サンオクネンノタビビト」

長野

・活動のあゆみ

・編集後記

どんな場所で(どんな体勢で、というか・・・)皆さんは本を読んでおられますか?
わたしの場合は・・・①夜、布団に入って、おネンネするまでの10～30分間。

②お風呂の湯船につかって、汗をかき、かきしながら。③家の近くの賀茂川べりに寝そべって、へたっぴいなトランベットの演奏を聴きながら。④夏は冷蔵庫にもたれたりして。いいですよー、冷房の効いた台所のひんやりした床、そして、我が家の冷蔵庫が、ひっそりとその巨体を震わせている。この世に冷蔵庫とわたししか、存在しないような気がする事があって、それと似たようなセリフを何かで読んだときは、とてもうれしかったなあ。

逆にここでは絶対に本を読まないゾ、というような場所・時はありませんか?電車・バス・車の中。わたしは絶対に読みません。本を広げようものなら、すぐにムカムカして吐き気をもよおすので。あと、トイレタイムも読まないなあ。どこぞのレンジャーは、自宅のトイレに漢和(国語?)辞典と英語の本がある、と聞きましたけど・・・わたしには逆効果ですね。(あ、正確には、でした、と言うべきかな)

あ、「おススメの1冊」の件ですが・・・えーと、特に思いつかないから、昨日、お風呂でまた読んだ、アメリカよ!あめりかよ!(集英社文庫)にします。

著者は落合信彦。ご存じの人もいるのでは。一時、超売れっ子作家の時もあったし、アサヒスーパードライの宣伝にも出てたし。内容は・・・彼の、アメリカでの大学生活とか、ベてん師のようなお父さんや、それと全く不釣り合いの、真面目なお母さんのこととか、ケネディとの出会いや、大学院を出た後のオイル・マン時代のこととか・・・彼の自己回顧録、みたいなものかな。お風呂に1～1.5時間つかりながら、ボーンとした頭で読んでいるので、頭に入ろうが入るまいがどちらでもかまわない内容なんですけど、結構、痛快なので、湯船につかりながらZZZ・・・ということにならずにすんでいます。

興味があったら、お貸ししますけど、わたしの本は、20歳ぐらいの時に買ったもので、それから1年に1、2回はお風呂場に持ち込んでいるので、結構、ふよぶよしている様な気が・・・。

読もうっ!!と思って読むほどのものでもないのに、ひますぎる・・・なんて日の、頭を働かせたくはないけれど、時間潰さないと、夕方来ないなあ、みたいな時にでも、どうぞ。



心に残る一冊

木に会う

高田宏 著 (新潮社)

突然ですが、皆さんは、どのようにして読む本を選んでいきますか。

私の場合は、ふらりと本屋さん立ち寄った時に、ひらめきて選ぶことが多いです。今回のテーマ『心に残る一冊』で紹介させて頂く本『木に会う』も、こんな感じで出会いました。

この本は、作者である高田氏が、縄文杉などの色々な木に会いに行く話、昔からの木と人とのつながり、木の生命力などが書かれている本です。この中で、作者が、静岡県の河津にある来宮神社の大楠に会いに行くところの下りを読んだ後、自分自身も、樹齢二千年と伝えられている大楠に会いたくなり、この本を手掛りに来宮神社に向かいました。

実際に、自分の目で見た大楠は、足がすくむほど大きく、木の前で落ち葉掃除をしているおばさんが小さく見えるほどです。木に近づき、周りをぐるりと周ってみると、色々な姿が見えてきます。太い幹には小さな虫がすみつき、葉は青々と輝き、枝には鳥たちが集い、根はゴツゴツと張り巡らされ、その根に抱え込まれた土はフカフカで、そこには小さな芽が顔を出しています。そんな大楠の姿に、木というものを超えた何か、神秘的なものを感じずには、いられませんでした。

ゆったり、ゆったり命を育む大楠。今までそこに存在してきたようにこれからもずっとここに存在することでしょう。二千年という歴史の流れの中でたくさんの生命に接したやさしさと後世へつなげる力強い命をもって…私は、落ち葉と小さな実、そして喜びをもらい、家路につきました。

河津の来宮神社の大楠に、引き合わせてくれた本『木に会う』に感謝!!

お薦めの一冊???

1期:松野 啓太

みんなは普段本をよく読んでいますか？

私は、暇さえあれば無性に図書館へ行って、何か面白そうな本がないかと探してみたくなる“くせ？”があります。そして、青空の下でのんびり寝転びながら読書をする、それはもうとっても幸せな気分になる人間です。

✓ 本とは人にどんな影響を与えるのでしょうか？

人生の楽しみを何倍にも増してくれるもの？

人との出会いと同じく、一冊の本が、その人にいろんな意味で大きな影響を与えてくれたりする。また、本を読む上で、環境をうまく作ることが、非常に大切な要素の一つだと思います。同じ本を読んでもその置かれている環境で、感じ方が、影響の受けぐあいがまったく違ったものになったりすることがあり、2度目に読んだときは、まったく違った印象を受けることもあります。

人それぞれに個性があるのと同じで、好みの本も、違うと思いますが、私がここ数年に読んだ本の中で、印象に残っている本をいくつか、紹介したいと思います。

✓ 一度は読んでおきたいレイチェルカーソンの本

レイチェルカーソンの名を初めて聞いたのは、くろんど園地の林の中で、『センスオブワンダー』という本を朗読してもらった時でした。その時の印象は、今でもよく覚えています。

カーソンの代表作として一般によく知られている本は、『沈黙の春』でしょう。

環境問題を考え始めるきっかけの入門書として非常にすぐれた本だと思います。

便利さの追求(この本では化学物質)によっておきる、様々なリスク、もろさ等についてわかりやすく、しかも表現力豊かに書かれています。

もう一つ、『われらをめぐる海』。これは、現在NHKで放映中の『海・知られざる世界』とあわせて読むと、よりいっそう興味深い本となると思います。NHKが、この本を参考に番組を制作しているのかどうかは知りませんが、本の内容が、映像を見ることによって、より鮮明にイメージが湧いてきます。

✓ 『植物が消える日』

種が一日にXX種、絶滅しています。種の多様性が失われた結果、生物相や進化に影響がでるといふたぐいのことをよく環境問題で耳にしますが、具体的に種の絶滅が人間にとってどういった影響を与えるか、植物に的を絞って記してあります。

薬品、工業資源、食料・・・などを使った、植物利用の歴史を通して、元種の大切さがわかりや

すく記されています。

もしかして、今日絶滅してしまった植物のなかに、ガンやエイズ等の画期的な治療薬があったかもしれません…と言うようなことが、かかれています。

✓ **『森の思想が地球を救う』**

西洋的文化は、森を征服するところから(ギリシャ神話)始まっているそうです。

日本の自然神、仏教等の思想を通して環境問題はどのように起こっているのか、現代人の思想の根本に原因があるのではないかと？

便利さを追求し自然に対しての畏怖をわれわれは、忘れかけているのではないかと、深く考えさせられた一冊です。

✓ **絵本**

『かがくのとも』という幼児向けの雑誌が毎月発行されています、置いてある書店が少なくすぐに売切れちゃうのが難点ですが、インタープリテーションにとっても参考になる絵本雑誌です。

なかでも、『どんぐりかいぎ』、『ひみつはうんち』、『たいふう』、『にゅうどうぐも』、…などがお気に入りです。

✓ **図鑑みたいな写真集…『植物記』、『動物記』(福音館書店)**

一年を通して一つの地域で観察された写真が掲載されており、興味を引かれる写真が数多くあり、思わず買ってしまいました。いつ見ても楽しくワクワクさせてくれる写真集です。

✓ **エリックバーンの『人間関係入門』**

依然講習していただいた『西田さん』お薦めの本です。昔から、心理には興味はあったのですが、この本を読んだことで、より深く興味を持つようになったきっかけの本です。

✓ **『モモ』**

児童文学ですが、これは是非読んでみてください！お薦めです。

忙しい！この言葉の意味を、ちょっと立ち止まって考えてしまいます。いろいろな人との関わりを大切にしようと思ってしまう一冊です。

以上、ずらずらと上げてしまいましたが、少しは気になる本がありましたでしょうか？

読んでみたい本があれば、気軽に声をかけてください。

みなさんが、これは！という本に巡り合えることを祈っています。

おすすめの一冊

新居田 佳代

今回『おすすめの一冊』ということで原稿依頼を受けて、いざ本棚の前に座り何を書こうかな？とざっと見てみると、出るわ出るわ、同じ本が。

村上春樹の『ノルウエーの森』が2冊、夏目漱石の『こころ』も2冊、遠藤周作の『沈黙』にいたっては3冊もあった。

学生の頃から古本屋が大好きで、行っては買い、また行っては買い、という具合なのだが、記憶力が乏しいので、読んでも読んでも上記のごとく、懲りずに同じ本を買ってしまうらしい。

こんな私も、最近ではめっきり本を読むことが少なくなり、ただでさえ忘れっぽいのに、そんなに昔に読んだ本のことを覚えているはずもなく、何にしようか迷った挙句、もう何回も読んでいるこの本を選んだ。

原田宗典の『吾輩ハ苦手デアル』

彼は多才な人で、小説、エッセイから戯曲まで書いたり、最近ではテレビでも時々見かけたりする。

この本はエッセイなのだが、初めて読んだのはかれこれ6年ほど前になるだろうか。延々と作者の苦手なものが、これでもか!!というくらいカッコ悪いエピソードと共に披露されているのだ。

それまでエッセイをほとんど読んだことのなかった私には、そのとぼけた内容はかなり衝撃的だったと記憶している。作家と呼ばれる人でもこんなに苦手なものがあるんだなあ、私にもこんな経験あるある、と妙に親近感が湧いてきて、読めば読むほど和やかな気持ちになってくる。

それ以来、落ち込んだ時などに読んで、励ましてもらったり、元気づけてもらったりしている、私にとって大切な一冊なのです。

レンジャー活動には何の役にも立たないと思いますが、とても読みやすいので、機会があればぜひ一読してみてください。

舞台は、遠くに天山山脈の雪峰が青空に浮いているように見える広い草原。そこである偉大な老物理学者がお忍びの中国西域旅行中、カザフ族の少年と出会い、宇宙観について語り合うストーリーです。ちょっと哲学的なので時にはわかりにくいところもあるかもしれませんが、一言一言に深い意味が含まれています。

色々なやり取りがあるのですが、私が気に入っている部分を少し紹介します。

まず、石が下に落ちるのは、石が下に落ちたがっているからであり、下に落ちた石は下に居たがっている。また、石を上へ放り投げたときに石が落ちてくるのは、石の上へ行こうとする意志が弱いからだそうです。素敵な考え方だと思いませんか？

ほかにもこんなやりとりがあります。「速いということはそれほど意味のあることではない」と。例えば街へ羊の毛を運ぶとき、馬で行くなら往復1日かかるところ車を使えば半日で行ける、そうしたら半日時間が余って他のことができるだろう、と老物理学者は言います。しかし少年は、そうではない、半日で行ければその人は1日に2度羊の毛を街へ運ぶことになる、つまり速くなるということは時間が余ることではなくてもっと忙しくなるということだと言います。

いかがですか。真理をついているとは思いませんか？

大自然の中でゆったりと時の流れを感じている少年には、この世の“真理”が観えるのかもしれない。合理化社会の中で生きている「現代人」には見えなくなってしまった大切な“理”が…。

老物理学者は真理を「神の言語」といい、真理を探るために一生を捧げてきたと言います。そして見いだした結論とは、「人間は誰に遠慮することなく、幸福になっていいのだ」ということ。“真理”っていったい何なんでしょう？

少年は、宇宙は羊と羊じゃないものから出来ているんだと言います。

レンジャーの皆さんもぜひこの意味を追求して“真理”を見つけてみて下さい。

5期 えほんだいすきほーちゃん

(本名 穂積仁美)

おすすめの一冊!!

おすすめの一冊?うーん何にしよう・・・正直私は、活字は苦手なので・・・でも、そんな私が思わずそろえてしまってるのが俣野温子さんの大人向け絵本。落ち込んでるときや、がんばりすぎちゃってるときには特におすすめ!中でも絶品なのがぶたのツイギーシリーズ、(キャラクターが私に似てるからといわないように)今出版されているのは『ドキドキ』『ハラハラ』『ワクワク』の3冊、自分で買うのもいいのですが、これをプレゼントされたら、もっといいだろうなーと思い、『ワクワク』を、友達にプレゼントしまくってしまいました。ちなみにそれぞれのテーマは『ドキドキ』は恋愛、『ハラハラ』は友情、『ワクワク』は応援ってとこだと思います。みなさん用途に合わせてぜひプレゼントしてみてくださいね。(ちなみに私は『ワクワク』しかプレゼントしたことありません!)今、なんだか気が滅入るな・・・疲れるな・・・と思っている人は、ぜひ立ち読みしてみてください。もし、私と同じ感性の持ち主ならきっと、「まいっか」って気持ちになれると思います。

ところで最近、心理的にはげます本がホント増えてきましたね、なんでも「セラピーブック」って呼ぶらしいのですが(ほんまかいな)、相田みつおさんの『にんげんだもの』なんてえのは代表作だと思います。このほかにもひろはなかずとしさんの『いつだってあなたはすてきだよ』とか、ブッタとシッタカブッタの『そのまんまでいいよ』とか・・・かくゆう私も結構その手の本持っているんですけど、この手の本が売れば売れるほど、みんな疲れてんのね・・・って思います。ホントはいろんな人と話して気持ちの整理していけばいいのかもしれないけど、たまには本を片手にポーっと考えるのもいいかしんない・・・もしじっくり読みたい人は、いつでも谷口までお知らせ下さい。もれなくお貸しいたします!!!



4期メンバー 谷口いずみさん...

— 表紙の鳥たちに関する ^{いいわけ} 解説 —

vol. 11 から表紙を担当させていただいています。

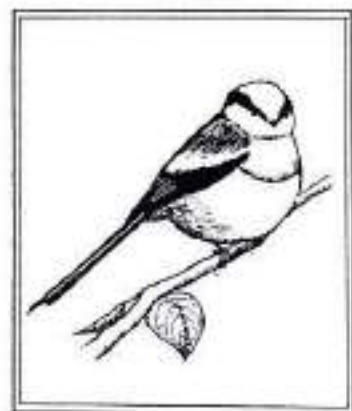
まず言い訳。どうも私が描く鳥たちは

異様に“肥満体”なので、何の鳥かを特定するのは

難しいと思います。下手な絵の種あかしをどうぞ。

詳細は各自、ハンドブック

図鑑でしらべてね。



vol. 11

'98.2.26 発行

エナガ (エナガ科)

府民の森でも高い声で鳴き乍ら

群れをなして木を渡っていくのが見られます。

vol. 12

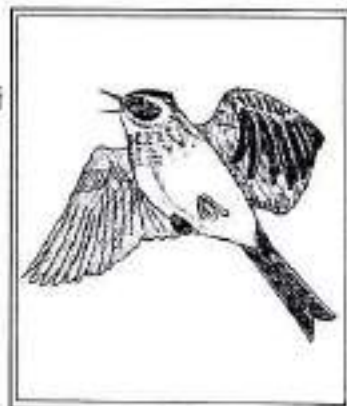
ヒバリ (ヒバリ科)

'98.5.20 発行

我が家の近くには田んぼや畑。

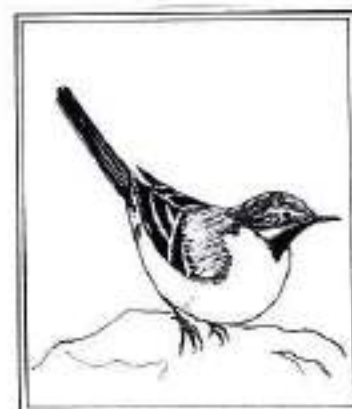
ヒバリのピ-クピ-クピ-クピ-を

きき乍ら春の日ざしを感じます。



message:

これから鳥見がしやすいシーズン。
ぜひ足もとだけなく、
上も向いて歩こうね!!



vol. 13

'98.8.28 発行

キセキレイ (セキレイ科)

くろんととなるかわで

道通したことがあります。

尾を上下させるのが Pretty ♪

vol. 14 '98.11.26 発行

カケス (カラス科)

ちはやのブナ林で見え!!

ふわりと大きくははたいて。羽根の青い色が

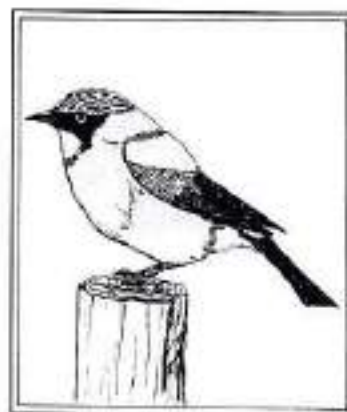
鮮やかに見えました。

さて、次号は... お楽しみ!!

こんちゃん ♪

Interpreter
Workshop vol. 14

森のつうしん



府民の森 パーキング

1998

33年ぶりという「しし座流星群」とご対面の時が来ました。資料を紐解くと前回の時はアメリカなどでは1時間に1万個の流星が流れたとか。こりゃもう「流星嵐」なんてことも期待してしまいます。てなことを思いつつ今回の流星を心待ちにしていました。今回を逃すと33年後、ということは還暦を越えてまっせ、生きているのか分かったもんじゃない、ということで張り切って徹夜をする準備を整えたのでした。

迎える11月17日、この日は夕方から見学ポイントまで移動を始めました。「ポイント」といっても観測といった堅苦しいことはなく、この流星を肴に宴会をしようといった企画に合流させてもらったのでした。ネット上で知り合った人たちとのオフ会に参加したわけです。(むら・おと・あき・あさ・ゆき・あま・み) 普段はメールでのやりとりのみの関係なので、いったいどうなるのだろう？と不安もありながらの集合です。

現地ではすでに焚き火の場所と、薪があたりからかき集めて準備が始まっています。おっと、ここで現地の紹介もしておきましょう。今回行った場所は京都府の南山城村の童仙房(どうせんぼう)という場所です。木津から木津川沿いを上野方面に入っていく、笠置付近で山の中に入っていく、といった場所です。まわりには何もありません。今回ホストの方のログハウスがあるのみです。ちょうど東方面は畑などがあり視界が開かれており、あとは時間を待つのみといったところです。

日付が変わろうかという時間になると、食事(宴会?)の方も落ち着きだし、星を眺める準備をしました。とにかく寒かったので、シャツ・トレーナー・パーカー・シュラフ・ブランケット・ロールマット達を引きずりつつ寝転がりました。(あとで聞くと温度は0度位では？との話)

静かに見ていると、流れ星を見ることができるようになりました。数的には「思ったよりも」少ないようでしたが、それでも、毎年見ている夏場のペルセウス流星群の時と比べても各段の違い・・・。流れる度に歓声が湧き起こりました。2時を過ぎようかという頃になると、特大といってもいいような規模の流れがよく見られました。「わあ～!!」という声を聞いてから視線を移してもなお、流れが見える、といった大きさです。また、そのうち一つは流れると言うよりも爆発したように閃光が一面に広がったようなものもありました。当初予想されていた極大時間の4時頃は一面雲に覆われて5時近くまで続きほとんど見ることはできませんでした。

一晩を振り返ってみると、恐らく50～60の流星は見る事ができたように思います。「もっと見る事ができたのでは？」といった期待からすると物足りなさはありませんが、それでも、普段とても目の当たりにすることのできない事を体験できたということは、それだけでも値打ちがあったように思います。次の時は33年後、ましてや日本では？ となると、よかったなあの一言です。

でも文章にしてみると、その時の感覚を表すことが難しい。そんな情景を表現できると実感も湧くのだけど・・・。その時浮かんだのがタイトルの曲です。

～見上げてごらん 夜の星を～ (by 坂本九)

そんな気分になった一晩でした。

ちょっと、まとまりはつかなかったけど・・・。

☆流れ星 見れました

4期 角野 和彦

レンジャーのみなさんのほとんどがこの日にどこかで流れ星を見ていたことでしょう。私もそのうちの一人です。一週間ほど前からしし座流星群のトピックなどで職場内でも、寝ずに見ようという人もいました。

私の場合は、どこかにいってみようと思わず、ふつうに家で見ていました（正直に言えば、一緒に見る相手がいなかったということかな）。家のまわりに街の明かりはありませんが、予想されている東南の方向には山があり、そう簡単にはみれないと思っていましたが、初めに、流れ星を見たのは午前2時前頃。たまたま部屋の窓から北の空を見たときです（なぜ北なの？）。それからは、部屋の中から見たり、外に出てみたりの繰り返しといったところですね。その日は冷え込み、風がきつかったので、外にずっといることはできませんでした。外に出たり、入ったりの繰り返しでは、なかなか見れませんね（当たり前か？）。また、首もだるいし、見るのも持続しません。私がよく見れたのは、北の空のようでした。北斗七星のあたりでしょうか。流れ星の軌跡の大小によらず、きれいな光線で目に残りました。これまで流れ星をなかなか見ることがなかったので（見ようという気がないのか、我慢強くないのかな）、今回は、はっきりと見ることができたことがよかったです（少なかったけど）。

流れ星同様に感心したのは、その日は星がとて多く見えたことです。この時期は、仕事が終わると日が沈んでいるため、遅くなくても家に帰ると空には星がいくつか。これからの季節になるとオリオン座を見る機会が多いですが（見つけやすいので）、他の星にはあまり気づきません。流れ星が見られる日は、雨が降ったあとのせい、風がきつかったせい、夜中は満天の星空といったところでしょうか。特に明るい星はありませんが、とってもきれいに星がみれました。こんなに星があるのかと思ひほど。

流星群を見ようといろんな場所に行って見られた人、期待はずれに終わった人。そんな余裕のなかった人。いろんな方がいると思いますが、家で見るのも良いものですよ。こんな見方であっても、少しでも見れたので、家からでもこんなに見られるんだと思ひ、また、星の多さを感じました。さてみなさんはどのような流れ星を見ていたのでしょうか。

ネイチャー通信

1998年 立冬号

「冬の星の巻」

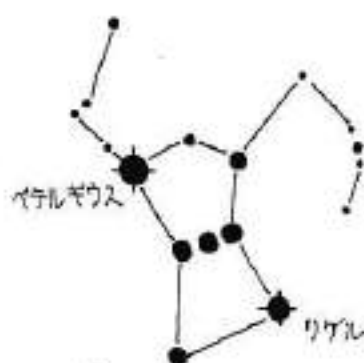
パークレンジャー きんちゃん

寒さが厳しくなるにつれて、一年で一番、星の輝きが美しいのが冬です。きりっと澄んだ空気と多数の一等星、豪華な星座たちが夜空に宝石を散りばめたような美しさです。

まずは、誰もが知っているオリオン座を夜空に見つけて、そこから冬の代表的な星座と冬の大三角形を深してみませんか。

——オリオン座——

三つ星に、“リゲル”(青白)と“ベテルギウス”(赤)。三つ星はほぼ真東から出てほぼ真西へ沈みます。



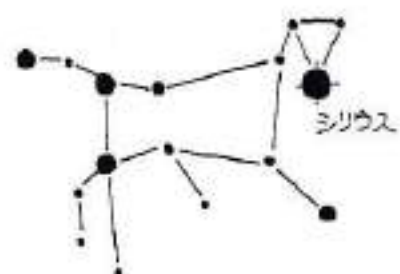
——おうし座——

獵師オリオンに襲いかかろうとしている猛牛の姿。“アルデバラン”(赤)。この星座の中に、枕草子にもでてくる「星は命」のスピル、又の名をむつら星といわれる“プレアデス星団”がみられます。



——おおいぬ座——

獵師オリオンが引きつけている犬の一匹の姿。この星座には、全天で一番明るい星で焼きこがすものの意味の“シリウス”(白、-1.5等星)、中国では天狼星と呼ばれる星があります。



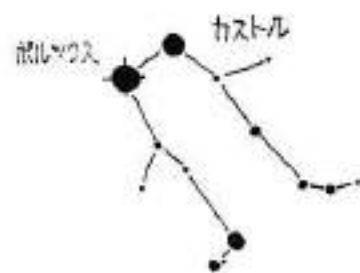
——こいぬ座——

この星座もオリオンの犬の一匹の姿。“プロキオン”(黄白)



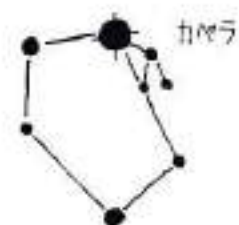
—ふたご座—

双子の兄弟の姿。“カストル”と“ポルツクス”(橙々)



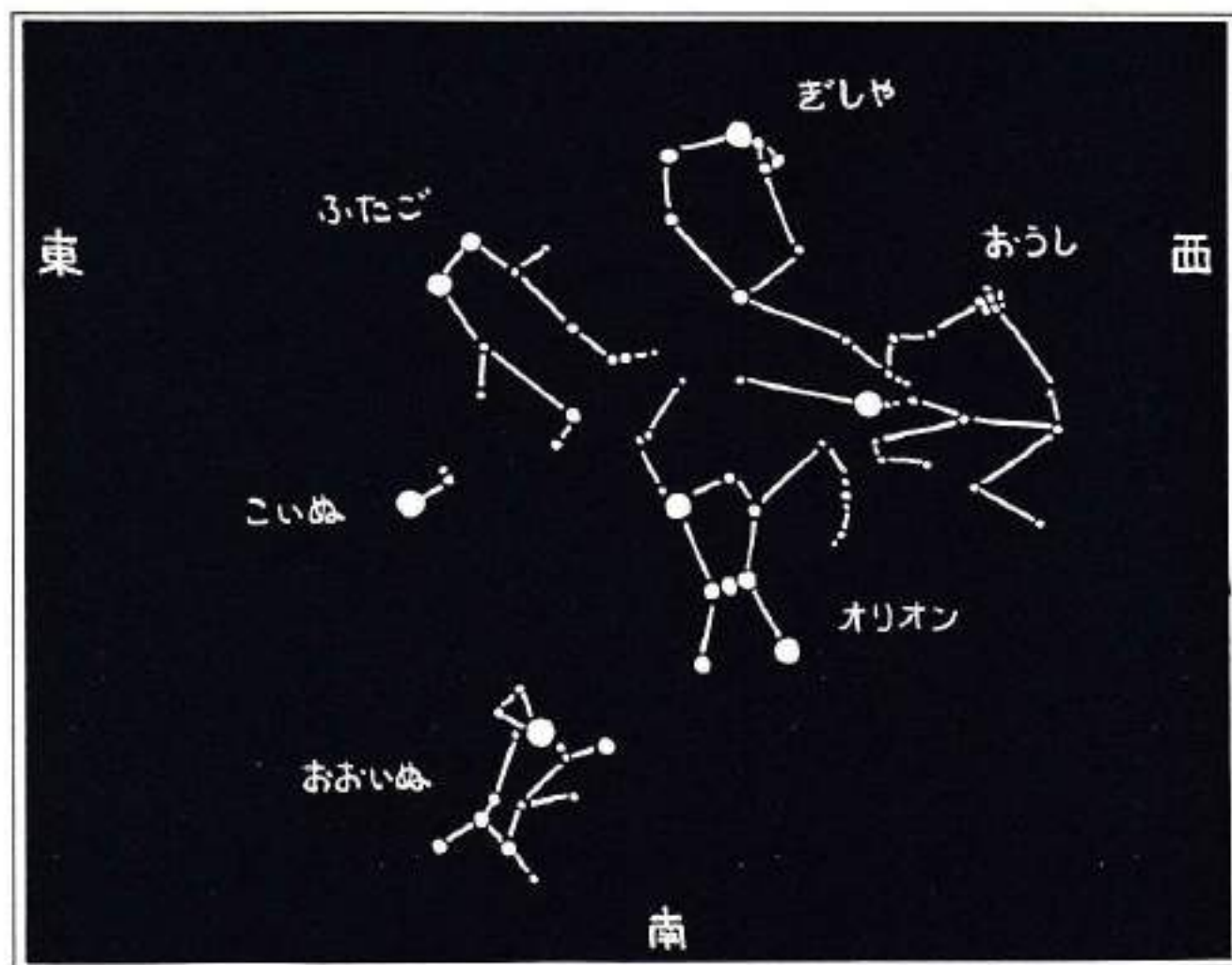
—ぎよしゃ座—

羊飼いがやぎを抱いた姿。後になってギリシャ神話にでてくる馭者に結びつけられて、この名前になったそうです。“カペラ”(白)



冬の大きな三角形

「オリオン座・ベテルギウス」、「大いぬ座・シリウス」、「小いぬ座・プロキオン」を結んでできる大きな三角形を、冬の大きな三角形といいます。



ピッキオについて書くように言われたのですが、ピッキオ、知ってる人いらっしゃるでしょうか？軽井沢のガイド本見てください。大概載ってます。

ピッキオは軽井沢に於て、いわゆるインタープリテーションを行っている団体(?)です。

長野県のしなの鉄道、中軽井沢駅を降りて20分ほど歩くと、星野リゾートが見えてきます。星野リゾートは創業大正3年の、軽井沢でも老舗の温泉ホテルで、ピッキオはこの一部署です。ピッキオは、現在メンバー約10名ほど、メンバーはこの社員になりますが、星野リゾートの一員として、隣接する”国設軽井沢野鳥の森”やその周辺でインタープリテーション活動及び、自然関係の調査研究等を行っています。国内でインタープリテーション活動を行っているところは数多くありますが、ピッキオのように、ホテルという企業の中でしかも10人もの規模で活動を進めているのは、まだ珍しいです。そういう意味でここは注目も集めています。ピッキオは、インタープリテーションの事業化、つまり日本ではまだ珍しいことですが、インタープリテーションをプロ化することを目指し、活動しているのです。星野温泉は、古くから自家発電に取り組んだり、自然派を指向してきたホテルだそうですが、今ではこうして、ピッキオを持つことで、より一層自然との共生を全面に打ち出したホテル経営を行っています。実際に、ピッキオがあるから星野を利用するというお客さんも少なくありません。現段階で、ピッキオという部署が、事業的に独立出来るかどうかはともかく、ピッキオが星野リゾートを他のホテル群にくらべ差別化を図る助けになっているのは、確かなようです。なんでも、始まりは今の社長がアメリカの国立公園を訪れた時、日本でも出来る筈だ、と思ったことからだそうです。そして今のピッキオが始まったとか。

ところで、どうして急に「ピッキオ」なの？と思われた方、そうですよね。他にも団体はいっぱいあります。理由は私が半年ほどここで雑用係として遊んでいたから(バイトです)。やってたことは事務も含めた雑用一般だったので何をか書けて?とか思うのですが、とりあえず上記のような基礎知識を頭に入れた上で、お付き合いください。

ピッキオは年間を通じて様々なイベントを行っています。P・Rのみんなが仕事の合間にうんうん言いながら企画をたて、休みをけずってイベントにあてるのとはやっぱり違います。余裕の面とか。勿論仕事ですから、妥協は出来ず責任と自覚が課せられます。丸きり比べる訳にもいかないんですが、

彼等の仕事は、イベントの企画・実行・運営、それに伴う諸雑務、自然情報の収集や研究他、といった形になります。メンバーにはそれぞれ専門分野があって、鳥が得意な人あれば昆虫専門の人あり、なかにはずっと特定の研究を続けて論文を書いている人もいます。集められた自然情報や研究内容は、いずれ各イベントの中に還元されてゆきます。図鑑も発行しました。内容はけっこう面白いです。ピッキオに関して、個人的にいいなと思ったのは、知識を得る作業も仕事になることや、例えばガイドに失敗したとして、その反省点を生かす



機会がすぐまた与えられること。毎日行っているガイドに加えて団体にも日々対応してるので、実践の機会はやっぱり多いと思います。私たちが、イベントで反省しました、はい次は？・・・3か月後～というのとは、大分違うと思います。個々のインタープリテーションのレベルにおいて、ピッキオのそれは、とにかく及びもつかぬ高みの、きらめくお星様ではなくって、頑張れば手の届くものだと思っておりますが、やはりそうした実践数やなんかはどうしても、微妙な差を生むような気がします。だからこそインタープリテーションの事業化には一定の意味があるのでしょう。

さて、ピッキオのインタープリテーションなんですが、これは見たところ、知識的なものを中心になっているようです。無論一律ではないんですが、私はそうかな、と。どういうことかと言うと、例えばネイチャーゲームによく見られるような、感性重視のプログラムではなくて、むしろ知識的な面白さを伝えてゆく話、好奇心を満たしてゆく、伝えてゆくものなのだと思います。つまり、客観的な事実をいかに面白く伝えるか、ということに力点が置いてあり、参加者は新たな知識を通して森を見るといった形、でしょうか。最近の環境教育の流れは、感性系のものがより注目されているような気がしますが、その中にあって、いやそれでもやはり知識は重要だ、と主張するのがピッキオのようです。私なんかは、感覚系のプログラムも割と好きなので、なんでかなぁと思ったんですが、一つにはお客のニーズもあるのかと思います。後は幾つか意見として、「感情論は結局あまり役に立たない、正確な知識の方が良い。感覚に訴えることは時として反発も生む。好奇心は誰にでもあるし、客観的な事実のみを伝えたい」とか、「生態学的な物の見方を一番伝えたいから」とか、ありました。P・Rの皆さんはいかがが御考えですか？勿論良い悪いじゃないです。

つらつら書いてきましたが、ガイドはわかりやすく楽しいものなので、皆様も機会がありましたら是非参加してみてください。基本的なガイドは一年中毎日やってます（ホテルの厳冬期休暇以外）。歩くのは午前中2時間半くらい、大人一人1050円。少ないときは一人から、多いときも一班20人くらいで案内してくれます。他のイベントなど詳細を知りたい方は、直接ピッキオに尋ねるか、私までご連絡ください。参加するのは面白いと思います。ピッキオに限らず、他団体のイベントに参加するのは勉強になって良いです。P・Rの皆様にはあちこち首を突っ込んでいる人も多いので、私もまたいろいろ情報とか教えて戴きたいです。教えてください。

さて軽井沢は、私着くまで馬鹿にしてたんですが、結構いいところでした。昔を知る人に言わせるともう大分う～んだそうですが、野鳥三大繁殖地の一つと言われるだけあって鳥が多いです。リスも多く、夜にはむささびが鳴いたり熊がうろついたりしてて良い感じ。別荘客の皆様を眺めると、やっぱりひがみ根性ものぞくんですが（笑）あっはっは。夏はやはり涼しいですよ。だからか大阪の山とは植生とかは大分違いました。貴重な経験だったと思います。感じた中、プロならではのこともいっぱいあったと思います。でも私たちも出来ることやボランティアじゃなきゃできないことも、またあったような気がします。できたらみんな考え、これからまた頑張っってゆきましょう。



庭の植物 <晩秋から冬にかけて見られる実>

1998,11,11 4期 山田 真紀子

はじめに

なぜ庭の植物なのか、というと、私の卒業論文のテーマが震災後の庭の緑の変化についてであり、庭の緑に最近興味を持っているからだ。この卒業論文のために、今年の春から夏にかけて、約60件の庭を調査した。かなり大変な調査であったが、いろいろな庭があるもんだなーと感心したり、震災前後の違いなどの発見があったり、庭を快く見せてくださった方と色々なお話をしたり、などなど楽しい調査でもあった。

この調査をやり始めてから、以前はあまり気にとめていなかった庭の植物に目がいくようになった。また、庭の雰囲気、形態などもつい観察してしまう癖がついてしまった。

庭の植物にも多くの種類があって、まだまだわからない部分は多いけれど、今回、よく庭に植えられている、この季節に実が見られる樹木を、いくつか、紹介してみたいと思う。

【トキワサンザシ】(別名ピラカンサ) 果期：10～3、4月

トキワサンザシ類は、秋から冬を経て春に至る半年近くもの長い間、黄色や赤色の果実をつけるので好んで庭園に植えられる。

この実を、ヒヨドリ、ビレンジャク、オナガ、などが食べる

【ナンテン】 果期：12月

日本と中国に分布し、日本では、西南日本の暖地に野生する。ナンテンは「難を転じる」にかけて、縁起木として植える。

いわれ：①ナンテンをお手洗いの近くに植えると悪夢を見ないという。

②鬼門よけに手水鉢のそばに植える

③旧家では、便所の廊下近くに植え、食当たりなどで腹痛のときナンテンの葉をかんで胃の内容物を吐き出させるとも言われる。

④葉の成分には殺菌力がある。祝い鯛など生魚の下にナンテンの生葉を敷くのはそのためである。

【キンカン】 果期：11～4月

中国原産。長江中流地域に自生したものとされる。日本には、江戸時代以前に渡来し、古くから栽培されていた。耐寒性があり栽培しやすい。丸ごと食べると果皮の甘みと果肉の酸味のバランスがとれて美味である。果実にはビタミンCが多く含まれており、熟した果実は、砂糖を加えて煮ることによって咳止めに用いられる。

【クログネモチ】 果期：11月

花は目立たないが、秋になると雌木に小さい赤い実をいっぱいにつけ見事であり、しかも春まで実を付けていることから、庭木はもとより公園や街路樹など至る所に植栽されている。クログネモチ（黒金もち）は、黒みがかった枝や葉の様子に基づいて付けられたものだろう。あるいは乾くと鉄色になるのをいったものだろうか。最近では、クログネモチを造園などでモチノキと呼ぶため、市町村の木にもクログネモチを単にモチノキの名で指定したものがあなど本物のモチノキと混乱が生じている。庭園木として植えられるのは、クログネモチである。

昔、モチノキを題材にした物語があったような気がするが…。その物語で、赤い実がいっぱい付くことができていたように思うが、ご存じの方はいるだろうか。

自宅から駅までの道の途中でも、きっと様々な植物が実や花を付けているはず。庭の植物にも少し目を向けてみよう!!

引用・参考文献

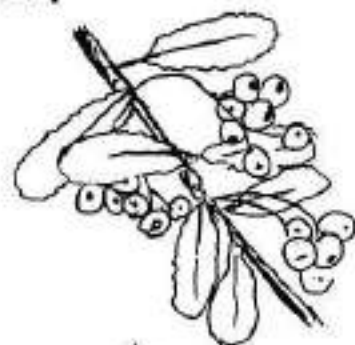
佐賀の街路樹・庭園木 佐賀植物友の会

日本の野生植物 フィールド版 平凡社

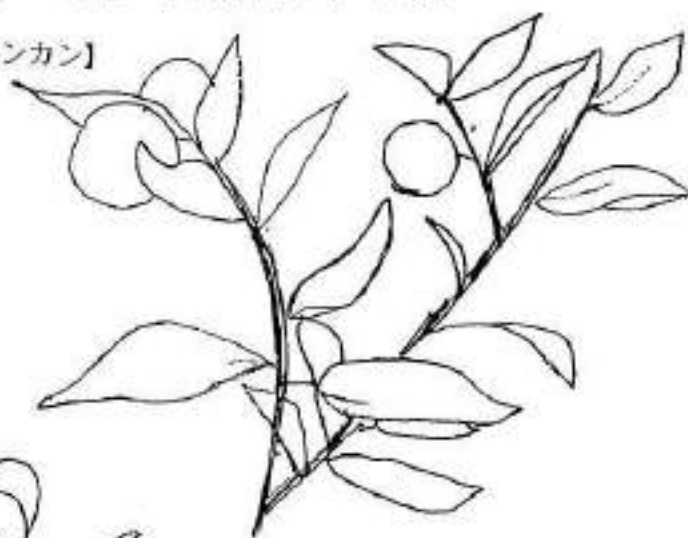
あなたの庭の垣根から始めよう、安心な環境づくり ヒューマン&ネイチャーネット

ワーク

【トキワサンザシ】



【キンカン】



【ナンテン】



【クログネモチ】



—— サンオクネンノタビビト ——

ながの まさかず

皆さんの一番身近にいる動物は何でしょうか。ペットを飼ってる方でしたら、犬です、猫です、シロナガスクジラです、などと答えるでしょう。また含蓄のある答えなら、人間です、でしょう。

それはさておき、夏のある日、私の部屋に四センチ程のイカツイ、ゴキブリが出現しました。「コイツはスゲエ！」と思いつつ、ティッシュとハンドで捕らえ握り潰しました。

「ブニュ！」白っぽい内臓のような物が飛び出し、彼は絶命しました。例えるなら、レーシングカーのようなストップアンドゴー、また往年のマラドーナ（サッカー選手）の様なスピードとテクニックを兼ね備えたゴキブリを私は退治したのです。私の顔は勝ち誇り自信に満ちていたでしょう。

しかし、なぜか急にゴキブリに対して憐れむ気持ちが出てきたのです。突然昔の記憶が蘇り、あるエッセイを思い出したのです。そうです！ゴキブリは「生きた化石」なのです。もし稀少な存在だったら、有名な生きた化石シーラカンスと共に博物館に飾られていたことでしょう。

ゴキブリは現存する昆虫類では最も長い歴史を持ち、それは約三億年といわれています。種族の歴史を語るなら、ゴキブリにとって歴史の国「中国」でさえも敵ではないのです。

彼らは三億年間あらゆる生存競争に勝ち続け、現在も、シーラカンスの様に細々と暮らすのではなく、文明社会のど真ん中で、人類と同じ屋根の下に生き続けるのです。

ヒトは百年、ツルは千年、カメは万年、ゴキブリは三億年と表現できるのなら（こんな表現はありえないが）彼らを生物界の「王者」として誰もが認めることでしょう！

あの光り輝く外骨格、たなびく触覚、異常なほど素早い動き、それらはまさに「王者の風格」でしょう。

活動のあゆみ(その3)

第3回目になりました、活動概要の報告です。今回は8月28日から11月26日までの内容となります。

《8月》

- 29日(土) 自主研修「スライドプログラム」1回目
(らくらくセンターハウス)
参加:5名(企画:小中)
☆「スライドプログラム」作成の第1回目です。詳細はインフォメーションにて報告済みです。

《9月》

- 10日(木) 第3回後期イベント企画会議(公社会議室)
参加:21名
☆追加イベントの打ち合わせを中心に行いました。また、育樹祭の概要についてのレクチャーも受けました。
- 13日(日) FW自然観察実習(明治の森箕面国定公園)
参加:18名
☆動植物を主なテーマとしての自然観察研修でした。
- 17日(木) 自主研修「ビデオ学習会」(公社会議室)
参加:5名(企画:規矩)
☆継続して行っているビデオ学習会です。詳細はインフォメーションにて報告済みです。
- 20日(日) 定例GW(むろいけ)
参加:2名(企画:松野・磯野)
☆「小枝で遊ぼう」のテーマで開催しました。
- 23日(水) 自主研修「スライドプログラム」2回目
(らくらくセンターハウス)
参加:10名(企画:小中)
☆「スライドプログラム」作成の第2回目です。詳細はインフォメーションにて報告済みです。

《10月》

- 7日(水) RW「自然観察の基礎」(公社会議室)
参加: 10名
☆森林インストラクターの山本先生の講義を受けました。
- 9日(金) イベント「木と木と木」打ち合わせ(公社会議室)
参加: 10名(ヘッド: 城内)
☆第1回目の打ち合わせです。
- 10~11日 自主研修「スライドプログラム」3回目
(らくらくセンターハウス)
参加: 10日4名、11日5名(企画: 小中)
☆第3回目の作業です。
- 15日(木) イベント「森の木こり体験ハイク」打ち合わせ(公社会議室)
参加: 26名(ヘッド: 松澤)
☆くろんどでの大人数イベントの打ち合わせ及び詳細の調整。
- 17日(土) 森の工作館お片づけ隊(森のの工作館)
参加: 5名(企画: 西出)
☆第3回目の作業です。工作教室の材料等の整理も若干行いました。
- 25日(日) FW自然観察実習(なるかわ)
参加: 24名
☆野鳥観察を主とした実習でした。
- 27日(火) イベント「この種あの種だれの種」打合わせ1回目
参加: 8名(ヘッド: 穂積) (公社会議室)
☆12月開催のイベントの第1回目の打ち合わせです。
- 28日(水) 会報編集会議(公社会議室)
参加: 6名(企画: 会報編集スタッフ)
☆第14号発行案の検討を行いました。

- 31日(土) 定例GW(むろいけ)
参加:6名(企画:磯野)
☆「ドングリ」がテーマで、園地内での観察・工作などを行いました。
- 《11月》
- 1日(日) イベント「森の中には木と木と木」下見(なるかわ)
参加:11名(ヘッド:城内)
☆イベントの流れの確認、クラフトの下準備等を行いました。
- 3日(火) イベント「木こり体験ハイク」下見(くろんど)
参加:18名(ヘッド:松澤)
☆コース取りの確認、各ポイント毎の打ち合わせを行いました。
- 8日(日) イベント「森の中には木と木と木」(なるかわ)
参加:12名(ヘッド:城内)
☆ドングリをテーマにし、お話やクラフト等のプログラムを行いました。
- 12日(木) イベント「木こり体験ハイク」準備作業(公社会議室)
参加:3名
☆準備作業の必要なポイントのスタッフによる作業です。
- 15日(日) イベント「木こり体験ハイク」(くろんど)
参加:29名(ヘッド:松澤)
☆来年に行われる育樹祭のプレイベントとして現地受付の形で行いました。ウォークラリー形式で園地の中を歩き、間伐体験、クラフトコーナーなどで実際に木にふれる内容も盛り込みました。
- 17日(火) イベント「あの種この種だれの種」打ち合わせ2回目(公社会議室)
参加:11名(ヘッド:穂積)
☆プログラムの内容についての検討作業等を行いました。
- 18日(水) 自主研修「スライドプログラム」4回目(公社会議室)
参加:7名(企画:小中)

☆これまでのまとめ及び今後の作成にあたり打ち合わせを行いました。

- 21日(土) 自主研修「樹木について・勉強会」(むろいけ)
参加：4名(企画：磯野・太田)
☆園地内のコースを歩き、見ることのできる樹木を中心に観察等を行いました。
- 22日(日) 定例GW(むろいけ)
参加：3名(企画：松野・太田・松隈)
☆自然の中のいろんな色を使って、絵を描いてみたりしました。
- 25日(水) 自主研修「ビデオ学習会」(公社会議室)
参加：3名(企画：規矩)
☆第4回目のビデオ学習プログラムです。
- 26日(木) 会報編集作業(公社会議室)
参加：8名(企画：会報編集スタッフ)
☆今年度3号目、通算第14号の編集作業です。


あれよあれよと言う間に上着がはなせない時期となりました。言い尽くされているのですが、時間の経つのが早いこと。慌ただしくなってきましたが、体調には充分ご注意を・・・。

【稲垣 裕治】

編集後記

年の暮れに近づいてきました。
 あと、いよいよ14号の編集と納稿です。
 この間、世間でも「大騒ぎ」だった。
 「し座流星群」もやってきました。自分自身も
 「大騒ぎ」...。と、もろもろ不足の続いた時
 期がたつた。33年に一回とすると...と
 思うと、んん、17-全南で走り回りました。
 と、言っている間に、おしやが、と
 たいそうです。(ナンコツカ!!)
 いながき ゆうじ

めっきり寒くなりましたが、
 皆さま いかがお過ごしですか。
 ここの、最近のおもしろかったはなしを
 1つ。

飼、わこのふうたん
 朝、起ききたら、わどせがつかまいた
 なせ なのじしじ  6期 おくのじしじ。

家のまわりも色アキはじめました。紅葉と
 いうより黄葉です。陽の光がないときはいど
 ないのが残念です。いんどこに住んで
 いますが、よその紅葉を見たい!

昨日 流星群見ました。流星群ってほんと空を
 みあげると見えるもので、見ようと思って
 集中しても見れないのに。不思議ですね

みなさん 流星群を見たのであつね?
 ほくも★を4つだけ見ました。
 願いごとがないますように...

平木

何かないであげて...の
 こなごに納稿せん。
 巻いた、おまじな、巻いたおまじ
 郵送したくなくて困ります。
 箱のようにこたつにはまりきってる
 最近でこ「エ」はす。
 家の近所では毎日「おまじ」を
 とおまじをいすうなるとおまじす。
 冬だ「はま」... おおた、

11月18日はおまじかどをいかんか
 をいすうか、7月20日し座流星群
 知られて、おまじかどに苦しみました。
 (最近回復してきましたが)
 いたネット付の「ア」を置くかどうか
 述べている今日この頃でございます。

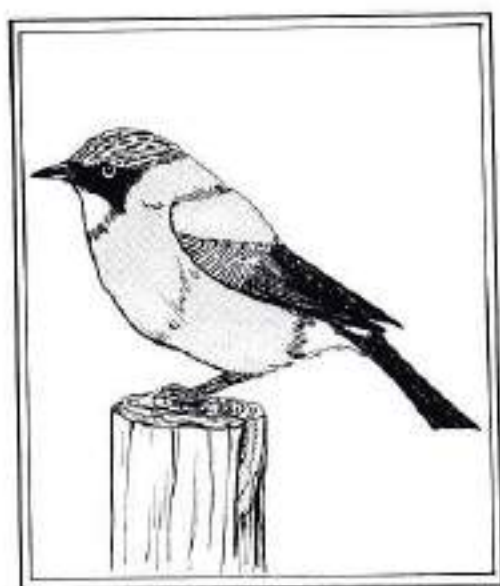
NAKIKU

何かと話題だった「し座流星群」
 寒さにふるえて見た☆三は
 願い事をするとはい早すぎました。
 33年後にまた見たらいいな...

つばきもと かおり

今年の風邪はしつこいようです。
 別にしつこい性格の人に
 しつこい風邪がといて、涙もなほようど...
 治らないのは山の中で走り回ったり
 真夜中に表のほうと空を眺めたり
 気温の低い山の中歩いたり
 しているからでもあつたけど...

かなざき ひろたか (←遅刻!)



1998.11.26. 発行